

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 3月 13日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4271401780		
法人名	(有)くらはら		
事業所名	グループホーム あぎみの里		
所在地	〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊 3124-3		
自己評価作成日	平成26年1月24日	評価結果市町受理日	平成26年3月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

(本館) ・利用者の状態、状況に応じた生活支援を行い、一人ひとりが持てる能力を、可能な限り導く自立支援と、利用者の尊厳と、尊重の思いで接し、家族のような和気藹々とした雰囲気、安心・安全に毎日を暮らされるよう支援している。 ・事業所の理念である「一人ひとりに時間をかけて暖かく見守り、声かけて付き添う。拘束のない介護。個人生活の継続」 ・地域の中でいつでも立ち寄れる開かれた施設作りを目指しています。
(新館) ・利用者の健康管理に注意し、転倒防止と病気の早期発見を心がけています。 ・利用者がその人らしく、自由な生活ができる様に援助しています ・ご家族の方が面会に来やすい雰囲気作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

長年介護職に携わっておられる施設長と管理者のもと、ホーム理念である「時間をかけて見守る」が日々の支援に自然と浸透され、ホーム全体がゆったりとした寛ぎの雰囲気が居心地の良さを感じさせる。入居者の生活歴を尊重し個々のペースを見守る様子は食事や排泄の支援、細かな気遣いや職員の観察力から感じ取る事ができ、その方に合った声かけや対応をすることで入居者の笑顔や自信、信頼にも繋がっている。接遇にも力を入れられており、丁寧さの中に親近感が感じられ、ホーム全体が家庭で過ごしているようなあたたかな雰囲気が感じられる。柔軟性と安定感のある支援により最後までその人らしい生活ができる心地よさが感じられるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人生活の継続の理念のもと、毎週月曜日、朝礼時に唱和を行い、常に念頭に置き、共有し実践に向け、日々の支援に努めている。	ホーム理念である「時間をかけて暖かく見守る」を日頃から実践に繋げるべく、入居者の身体状況やその方のペースに合わせた声かけや励ましがなされていることが入居者の自信に繋がっている。また、和気あいあいとしながらも入居者の尊厳を大事にした支援が入居者の笑顔に現れ、職員への理念の浸透がなされている様子が窺われた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会へ入っており、回覧板や近隣の方への挨拶を交わし、日常的に交流している。年2回の地域清掃にも参加している。	ホームは地域活動が盛んな地域に位置しており、日頃から地域住民によるカラオケや大正琴、踊りの慰問や近隣のキリスト教会のクリスマス会にお呼ばれがあるなど、日頃から交流を持たれている。会話の機会を持つことでホーム入居者が地域の一員としての関係性が保たれ、外気浴や散歩の機会を利用して地域との接点を持ち、気軽に立ち寄って頂ける施設づくりを目指し取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の行事や催物には近隣の老人会を案内し、食事会や演芸で歓楽されている。会話の中で、近況を伺い、相談等、対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催している。参加者は、家族、地域の代表と行政職員が参加され、利用者の状態や、行事等を報告し、意見や今後の対応等や、支援サービスの向上に活かしている。	会議では入居者の状況報告や議題に対して、参加者より忌憚のない意見が出され有意義な会議となっている。議事録には参加者から発せられた言葉が残されており、参加者の思いやホームに対して気がかりな点を表出させる機会となっていたりホームの取り組みを伝える場としても有意義に活用されている。会議終了後には会議参加者が入居者ともに食卓を囲みながら、会話を弾ませ食事風景を通して実際の支援を知って頂く機会ともなっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の保健所機関との連携に努め、利用者の体調管理や、状態等、相談や援助、指導を得て、支援サービスに取り組んでいる。	推進会議には広域職員の参加があり、会議を通してホームの取り組みや支援状況を伝え、意見や助言を頂くようにされている。行政からの出席は毎年担当部署が交代になっているが、これまでに会議を通して関わりを持った職員とも関係継続ができていたため、何かの時は相談に乗って頂けるなど問題解決に向け共に取り組む姿勢がある。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>全職員が身体拘束禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、拘束委員会を設置し、必要性と実施の有無を、常に検討している。</p>	<p>理念の中に「拘束のない介護」を掲げられており、「ダメ」を言わない支援が実践されている。時には不穏になる入居者もおられるが、本人が納得できるまで一緒に付き添い外を歩いたり、声かけの仕方を工夫して入居者の気分を逸らす対応がなされている。不穏の原因を探り、日常生活の中から不穏材料を取り除く声かけや対策がとられ、穏やかに生活ができるよう検討されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全職員は、高齢者虐待防止について、絶対に行ってはならない行為があることを、職員会議や機会がある度に話し合い、見過ごさないよう防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>管理者、職員は、権利擁護に関する研修会を受講し、職員会議で資料を配布し、学びを共有し理解に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時の契約時、重要事項説明書で契約内容を十分に説明を行い、利用者、家族の不安や疑問を尋ねて説明し、ご理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者や、家族との信頼関係を構築できるよう心がけている。ご意見、要望等、外部者へ表せる機会を設け、謙虚にそれらを運営推進会議に反映させている。</p>	<p>日頃から家族と積極的に関わる事で会話の中から意見や要望を聞き取り、要望に対してホームができることを実直に対応することで家族からも信頼が得られている。また家族面会時には入居者自身が自宅で生活していた頃の話や好きだったもの話を聞くことで本人の思いに繋げ、入居後もその方の生活継続に向けて真摯に取り組まれている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者や管理者は、職員との信頼関係を築き、意見や、提案を聞く機会を設け、話し合い、反映させている。</p>	<p>施設長や管理者は新しい感性を大事にしたいと考えられており、出された意見や入居者の支援の方法など話し合いをしながら、職員全体で考え取り組んでいきたいとされている。不穏の入居者に対して見守りのために手薄になる時間帯が出てきた事から勤務体制を全体で検討し、職員サイドで物事を進めないよう入居者へゆとりをもって、向き合えるように早出の時間帯に変化をつけるなど体制が職員の提案により講じられていた。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者や職員個々の、有する能力や実績、勤務状況を把握し、職員が生き生きとやりがいや、向上心を持って働けるよう、職場環境条件の整備に努めている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>複数事業の研修を通じ、交流する機会をつくり、ネットワークづくりや、相互訪問し意見交換を行い、サービスの質の向上させていく取組みをしている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>環境の変化により、体調や精神的な不安や、困っていることを、会話や行動を通し、ゆっくり傾聴し、安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の精神的な心理状況や、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け、信頼関係づくりに取り組んでいる。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所後、1ヶ月間程度、生活面、精神面、疾病、体調面の状態を、時間をかけゆっくり支援しながら見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を導き、手伝い等(食事づくり、洗濯物たたみ、配・下膳、お茶汲み、葉の日程書き)暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況をお伝えして、出来る事が増え、積極的に活動されていることを伝え、その事を通じて、家族との絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8 ○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた家へ、ドライブに出掛けたり、知人、友人が来里して、音楽会を催され、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居すると家族と食事出来る機会が少なくなる事に配慮され、家族にも面会時には食事を準備し、家族との時間がゆっくりと持てるよう支援されている。長年の付き合いがある友人の訪問がある入居者もおられ、面会時には寛げる空間を準備するなど入居者にとっての安らぎや安心感を大事にした支援がなされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、共有の場所、座られる位置を考慮し、一人ひとりが孤立せずに、利用者同士の関わり合い支え合えるような支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外部でお会いした時は、挨拶を交わし、近況を伺い、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて、本人、家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し、希望、意向の把握に努めている。言葉を表すことができない利用者には、必ず言葉かけを行ってから、介護にあたり、表情や身体状況を観察し、理解を得るよう努力している。	職員は家族の面会時に、その方の楽しみにされていた事を尋ね、畑仕事やお化粧、耕作の話題など各々に合わせた言葉かけを行い、また生活の中でも出来る事や役割を持って頂く事でその方の得意分野を引き出し、プライドを保ちながらその人らしい生活が継続できるよう支援されている。	

24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や、馴染みの暮らし方、生活環境を家族から伺い、それに近いサービスの提供に心がけ利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方、ゆっくり過ごされる方、活発に過ごされる方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のモニタリングで状態が変わらなければ、3ヶ月毎にケアプランを見直し、作成している。本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、スタッフと話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	プラン作成にあたっては担当職員がたたき台を作成し、ケース会議でその方の状態を総合的な視点から検討されたものとなっている。日々の介護記録には援助内容のキーワードが表記され、内容に基づいた着眼点のもと支援の様子が評価されている。記録は次回プランの検討材料として活用されており、本人本位へのプラン作成に繋がられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、申し送り帳、統一すべき事項を職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない。代替が可能な、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	居住している地域の小、中学校の福祉体験、婦人会による演芸訪問や、自治会との関わりで、本人が心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、入居前からのかかりつけ医療機関で継続受診されている。病歴や治療方針など相談しながら、安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	ホーム支援により入居以前のかかりつけ医を継続することが可能であり本人や家族の安心へと繋がっている。日頃から体調管理には注意を払い細かな状態変化も気を配り、医療連携の担当看護師へ相談、助言をもらいながら適切な医療に受けることができるよう対処されている。受診後の状況は申し送りノートに詳細を記録し職員間で情報を共有することで、小さな変化も見逃さない対応に繋がっている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の利用者の状態や体調、気づきを職場内の看護職員や訪問看護師等に伝え、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、頻回に訪問して安心して、またできるだけ早朝に退院できるように病院関係者との情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族の意向を尊重し、かかりつけ医と話し合っている。事業所でできることを見極め、かかりつけ医と協議し、今後の変化に備えて、検討し取り組んでいる。	これまで看取りの経験はないが、家族の希望があれば主治医の協力のもと取り組む姿勢がある。現在も2名の透析利用者の受け入れがあり、医師や担当看護師の指導のもと、その都度必要な知識を深めながら食事や生活面で注意すべきところを把握し支援されている。今後も入居者の状況をみながら、必要な知識を習得し個々に合わせた支援がされていく方針を持たれている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や、初期対応の訓練を定期的に消防署立会いと、施設内訓練で実践を身に付けている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず、緊急連絡網で全員召集し、自治会、地域の消防団に協力要請ができるよう、地域との協力体制を築いている。	年2回の消防訓練においては避難誘導や通報の再確認を行うと共に、心肺蘇生やAEDの取り扱いを実際に行い有事の際に迅速な対応がとれるよう対策が講じられていた。日々の生活の中で火を出さないことに注意を払い、発火するのを持ち込まないようにしたり自主点検表をチェックすることで日頃から防火管理意識を強く持たれている。	現在も備蓄の準備はなされているが、食糧や水の必要量として不足しているため、職員間で備蓄品の再検討の機会を設けるとともに自然災害に対する訓練や有事の際の役割分担の再確認を行う事で即分担して、実行できるよう安心できる体制づくりとなることを今後期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、各々の障害や身体状態に応じた誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ホームの方針として利用者の尊厳と尊重の思いで接することを掲げており、何事も職員サイドで物事をすすめず、常に利用者個々のペースを尊重した対応がなされている。最近では支援の中で言葉づかいについて、気になる場面に遭遇したため、職員全体で理念の思いを再確認し、また介護にあたっての心構えについて話し合う機会を持つことで尊厳の意識付けがなされ対応の改善に繋がった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が思いや希望を表したり、意思表示や自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念が「時間をかけて見守り、声かけして付き添う。拘束のない介護。個人生活の継続」の元、一人ひとりがその人らしい暮らしを希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、入浴時は、本人の好みの服を選ばれ、お化粧やおしゃれをして楽しめるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、一緒に献立を考え、一緒に調理することで、意欲を引き出し、地産地消で、楽しい食卓にして片づけをしている。	根菜や食物繊維、乳製品など健康を意識された彩りのいい献立が準備されている。季節の食材を使用を通して入居者との会話も弾み、ゆっくりと寛ぎながら食事をとることができていた。入居者が家庭菜園で育てた野菜が食材として使用されることもあり、本人に職員や入居者から感謝の言葉が届けられることは入居者の自信や喜びにも繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通して確保できるよう、好みの飲み物コーヒー、ココア、お茶、ジュース等を提供し、習慣に応じた支援をしている。		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。就寝時は、義歯を外し、除菌液に入れている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄の失敗や、オムツの使用を減らし、日中はトイレで排泄介助を行い、排泄の自立に向けた支援を行い、オムツは夜間のみ施行している。</p>	<p>日中はトイレでの排泄に力を入れて取り組まれており、特に職員各々が排泄に関して意識が強く排泄パターンの把握と共に、腹圧をかけるなどその方に応じた介助方法が検討されている。定期的な排泄が心身の健康への結びつきに強く関わっているとの意識を持ち、結果、排泄への取り組みが入居者の日常生活の張りへと繋がっていることが窺われた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘の原因や、及ぼす影響を理解し、個別に食前にヨーグルトを提供したり、飲食物の工夫や、野菜中心の食材を提供し、工夫や運動への働きかけを各々に応じた予防に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように、利用者の希望に沿った曜日や時間帯で、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>自分で入浴できる入居者には遠目での見守り、重度の入居者には2名体制での入浴など個々の状態に応じた入浴支援がなされている。特に保清には細心の注意がなされており皮膚が重なった部分への状態の観察や乾燥しやすい部分への保湿など小さな異常を見逃さず早めの対応をとることで臭気や不快感への予防、対応へと繋がられている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣を尊重し、昼寝や就寝時間は個別に対応している。寝具は天日干しをして、シーツ交換し、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>一人ひとりが服用している薬は、薬剤師より、薬の目的や副作用、用法や用量についても説明を受け、服用される時は、朝、昼、夕を確認を取り、服薬の支援と症状の変化に努めている。</p>		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように一人ひとりの生活歴や、力を活かした役割、洗濯物たたみ、薬の日程書き、カラオケ、習字等、気分転換出来る様、支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、ドライブや外気浴、施設周辺を散歩したり、普段は行けない場所でも、本人の希望を把握し、家族と外出したり、地域の人々と協力しながら、出掛けられる様支援している。	日常的にホーム周辺の散歩に出かけたり、日光浴を行う事で近所の方との交流の機会になるなど気分転換の機会を持たれている。入居者にとってなじみ深い初市へ出かけたり、お弁当を持って季節の花を見物に出かけるほか、個別支援で入居者と一緒に買い物に出かけることもある。入居者の趣味である家庭菜園の園芸道具や種の購入に出かけるなど、希望に応じた外出支援がなされその方の喜びに繋がられている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、初詣の賽銭や、買い物や、お金を所持したり、使えるように支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、知人、友人に、本人自らが電話をして会話されたり、年賀状や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はよしずにて涼をとり、暗くならない様に採光にも心がけている。四季折々の花を飾り、安らぎのある居心地の良い環境づくりに取り組んでいる。	職員により日々丁寧に手入れがなされた食堂は清潔感に溢れ、食卓を囲む椅子にはそれぞれ好みの座布団が並び、入居者それぞれが寛げる、安心感のある居場所が準備されている。また外出時の笑顔写真の掲示や四季の花々、季節を感じさせる飾り付けが施され視覚から季節を感じる事ができるよう配慮がなされていた。入居者と職員が笑顔で会話を交わす様子から家庭的な温かみを感じさせる、雰囲気の良い共用空間への気配りが感じられた。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士でソファーに座って、会話されたり、座布団、クッションも、個別に使用され、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が使い慣れたもの、好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるようTVやCDデッキ、カセットデッキなど自分の時間を楽しく過ごされている。	畳やフローリングなど希望や状態に応じた居室が選択でき、テレビや家族の写真、趣味の道具などが準備され家庭的な雰囲気や温かみがそえられていた。入居者の身体状況に応じてベッドの向きや棚の向きなど設置場所にも配慮がなされ、これまでの生活環境を重視した居室作りとなっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全に本人が自立した生活を見守り、送られるよう支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く場所に掲示してあり、常に意識し、介護に取り組み、毎週月曜日の申し送り時、出勤者で唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、敬老会などの行事には、招待したり、町内清掃にも必ず参加している。近隣の小学校や中学校との交流もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験などを受け入れ、高齢者や、認知症の方々の理解につながるよう、努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、推進会議を行い、状況報告や行事等、報告し、意見や評価を頂いている。今後の対応や、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	島原半島GH連絡協議会を中心に、活発に研修などへ取り組み、相互の情報交換など行い、協力体制に取り組んでいる。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアの取り組みに努めているが、やむをえない場合は、拘束委員会を立ち上げ、ご家族の方の同意を得て、対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、利用者の方の人格尊重を心がけている。研修などで学ぶ機会を持ち、これからも防止に努めていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や、職員会議などで、学ぶ機会を設けている。必要となられた方を支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や運営規定など、必要な書類を、十分に説明し、理解、納得の上で、署名、捺印をして頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示ができる利用者からの意見、苦情などには傾聴し、納得のいくよう説明している。ご家族の方には、面会時等、意見、要望を伺い、その都度対応し、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、常に意見や、提案があれば、その都度、申し出てくれる様に、話をしている。月に1度の職員会議などで、意見を聞き、対応している。		

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の努力や実績、勤務状況は把握されている。各自が向上心を持って働けるように、スキルアップも支援されている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には参加を促進しており、全員参加は難しいので、研修を受けた者が報告し、知識の共有に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>研修などへ積極的に参加し、交流を持ちながら、共に学び、サービスの質を高めている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前に、ご本人と向き合い、何うようにしているが、認知症の進行状態では、難しい場合もある。その時は、ご家族からお話を伺っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用までの経緯や、その方の生活歴、ご家族の要望などには、入所前には何うようにしている。ケアプランに反映するよう努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人、ご家族の状況を把握して、相談内容等からプランを作成し、説明を行い、支援している。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の様に、一緒に生活していく中で、喜怒哀楽を共にし、利用者の昔話などを引き出し、出来ない所を支援していくようにしている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力は必要なので、行事への参加をお願いしたり、面会時にもゆっくり過ごしてもらえる様に、支援している。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方が面会に来られた際には、ゆっくり話ができる様支援している。又、行きたい所がある場合、出来るだけ希望に沿う様支援している。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、楽しんでできる体操など参加して頂き、居室に閉じこもらない様に支援している。利用者同士、交流が持てる様に、支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族がいつでも相談、気軽に連絡して頂ける様、努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の残された記憶を大事にし、その方に寄り添う支援をしている。		

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や、ご家族から伺い、生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するように努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態変化があれば、その都度対応し、1人ひとりの1日の過ごし方、有する力等の、現状の把握に努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や、ご家族からの希望を取り入れながら、ケアプランを作成している。入所時や、状態変化による見直しなども、臨機応変に対応している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別に記録を行っている。確実な申し送りを記録して残しながら、情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の状況、要望に応じて、その人に合った支援に取り組んでいる。		

29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練を行ったり、小学生訪問や、中学生福祉体験学習などによって、心が和み、豊かな暮らしを楽しまれている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、ご本人やご家族の希望されるかかりつけ医を受診している。緊急時の対応などが出来る様に支援している。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や職場内の准看護師に、利用者の状態や気づきを報告して相談している。利用者が適切な受診、看護を受けられる様に、支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関である泉川病院では、地域連携室が設けてあり、利用者の状態や早期退院に向けての情報交換や、相談に努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意向を尊重し、施設で出来る限りのケアを、主治医の指示のもと行うが、医療的な処置が必要である場合は、ご本人やご家族、主治医を交えて相談を行う。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命士の救命救急講習を受けており、急変や、事故発生時、対応出来るよう備えている。(AEDの使い方、心肺蘇生法等)		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の消防団にも協力体制を築いている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、出来るだけの配慮をしている。安心感を感じて頂く様に、方言を使った言葉かけを行う事もある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活において、出来る事は声かけし、働きかけながら自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の行動は、一人ひとりのペースを大切に、出来る限り、希望に沿っての支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者からの申し出には、随時対応し、理容室への連絡、介助をしている。自ら訴えの出来ない方については、スタッフが整容に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決めておらず、旬の野菜などを取り入れ、食材の刻みを手伝って頂いている。施設の畑に、利用者と一緒に野菜を作り、収穫して食事に出したりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた盛り付けをし、摂取量は記録を把握している。水分不足にならない様、時間を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日常的に支援しており義歯については、洗浄などで管理が出来ない方については、スタッフがお預かりし清潔保持に心がけている。		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけ布パンツで過ごされる様、又、排泄はトイレで済まされる様支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供している。水分補給もしっかり摂られる様、声かけし、体を動かしてもらいなど、予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回(火・木・土)の入浴日に、利用者の体調や希望、タイミングをみて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室になっているので、いつでも居室で休息が取れる様にしており、又、共有の部屋に畳の間もあり、自由に使って頂ける様になっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬が分かる様に、個人ファイルに挟んだり、薬手帳など職員がいつでも確認出来る様になっている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などから、お手伝いをして頂いたり、花壇に野菜を作ってもらったりして、張り合いや喜びを感じて過ごして頂ける様、支援している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は、外気浴やドライブ等、出来るだけ戸外に出るように支援している。ご家族の方と、外出される事もある。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方には所持して頂き、出来ない方は施設で管理している。(個別のノートに記録しご家族に確認して頂いている)		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、ご本人に代わり、電話をかけ、取り次いで話をして頂いている。出来る方は自分で電話される事もある。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はよしずにて涼を取り、暗くならない様に採光にも心がけている。四季折々の花を飾り、安らぎのある居心地の良い環境づくりに取り組んでいる。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングは、安全面にも配慮し、居心地の良いスペースを提供している。昼の間もあり、自由にくつろげる場となっている。1人になりたい場合は、全個室なので、自室で過ごす事が出来る。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や、大事にされていた物、ご家族の写真など安心して過ごせる居場所となるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置したバリアフリーの建物で、トイレやお風呂の入り口に目印をしている。安全で自立した生活が送れる様に工夫している。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない